

基本目標4 生涯を通じた男女のこころとからだの健康支援

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）を踏まえ、男女が互いの身体的性差を十分理解し合い、相手に対する思いやりを持てるよう情報提供や学習機会の充実を図ります。また、性的マイノリティ、性の多様性についての理解を深める取組を推進します。

施策の基本的方向・具体的施策・施策内容

7 生涯を通じた男女の健康の保持・増進のための支援

(13) 女性の健康保持のための事業の充実

32	ライフサイクルを通じて男性とは異なる健康上の問題に直面することの重要性を、男性を含め社会全体が認識できるよう啓発や情報提供に努めます
33	妊娠・出産期における健康支援を充実します
34	乳がん、子宮がん検診の重要性について意識づけを行うとともに、検診を受けやすいよう環境整備に努めます

(14) 性差に応じた健康支援の推進

35	性差による疾病や症状等に対し、相談に応じるとともに医療機関等の情報提供を行います
36	男女それぞれが相談しやすい窓口の整備や情報提供に努めます

(15) 生涯にわたるスポーツ活動の推進

37	地域の中で男女がともに多世代でスポーツに親しめる環境を整備します
----	----------------------------------

(16) 食育の推進

38	男女がともに健全な食生活を営むための能力を育む支援をします
----	-------------------------------

8 こころとからだの健康に関する学習機会と情報の提供

(17) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）という考え方の浸透

39	多様な機会等を活用し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての啓発に努めます
----	---

(18) 健康保持のための健康教育、健康相談等の推進

40	生涯を通じて、自分の健康は自分で適切に管理できるよう、正確な知識や情報を提供するとともに、教育・学習を推進します
41	高齢者がリフレッシュできる場とその情報を提供します

(19) 思春期におけるこころとからだの健康づくり

42	年齢に応じた性教育を推進します
43	子どもの成長の段階を踏まえ、思春期の人工妊娠中絶やH I V感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒等について正しい知識を身につけ、適切な行動がとれるよう、学習機会の提供や指導に努めます

(20) 性的マイノリティの理解推進と支援

44	学校教育や社会教育等において、性的マイノリティへの理解が進むよう学習機会を提供するとともに、様々な機会を活用して理解推進のための啓発活動を行います。また、トイレ等の環境の整備を図ります
----	--

施策の基本的方向7 生涯を通じた男女の健康の保持・増進のための支援

(具体的施策 13)女性の健康保持のための事業の充実

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
32	ライフサイクルを通じて男性とは異なる健康上の問題に直面することの重要性を、男性を含め社会全体が認識できるよう啓発や情報提供に努めます	<p>広く市民等を対象に、男女共同参画に関する講座等を開催した。 〔実施講座名〕アンガーマネジメント講座 〔実施日〕4月～3月(月2回・全24回) 〔参加者〕のべ149人</p> <p>WAM通信でアンガーマネジメントに関する特集記事を掲載した。 WAM通信52号：11000部</p>	<p>講座については、こころの健康について考える講座であり、申込率・受講後の満足度ともに高い結果となっている。今後も引き続き実施し、健康を考える機会を提供していく。 啓発冊子については、自治会の回覧板を通じての啓発を行い、読まれた方からの感想は好評であった。今後も知ってもらいたい男女共同参画のトピックについて取り上げていきたい。</p>	継続	人権・男女共生課
		<p>中高年世代を対象とした講座を通じて、女性及び男性の性差に応じた健康保持の重要性の啓発を行った。</p> <p>関係機関と連携し、リーフレット等を市民に配布し、情報提供を行った。</p> <p>関係機関と連携し、講座の開催を通じて、こころとからだの健康支援に努めた。 〔実施事業名〕健康づくりセミナー(パパ&ママクラス) 〔実施回数〕6回 〔参加者〕936人 ※祖母の参加人数はカウントせず</p>	<p>毎回、パパ&ママクラス終了後、問題点を検討し、変更したことがスムーズな利用につながったと思う。引き続き、パパ&ママクラスの場を活用することで、若い世代の男性(パパ)への啓発や情報提供を行なう。</p>	継続	保健医療課
		<p>女性に特有な健康上の問題についての啓発や情報提供に努めた。 〔事業実施名および実績〕 パパ&ママクラス 475人 妊娠届出時及び妊婦健康診査受診券交付届時面接 2,642人</p>	<p>情報提供については、前年度と比べて人数の大きな変化はないが、引き続き、事業実施時に女性に特有な健康課題の啓発資料の情報提供を行なう。</p>	継続	保健医療課
33	妊娠・出産期における健康支援を充実します	<p>母子健康手帳交付時面談時、保健指導を行った。両親教室(パパ&ママクラス)、訪問や面接、電話等にて妊娠・出産期の健康課題について情報提供および指導を行った。 〔事業実施名および実績〕 パパ&ママクラス 475人 妊娠届出時面接 2,442人 妊婦訪問指導 231人(延べ) 産婦訪問指導 504人(延べ)</p>	<p>妊娠・出産という健康上大きな節目に対し、様々な機会を通して情報提供および指導を行えた。妊娠を機に発症する高血圧や糖尿病等の病態に対しても、正しい知識をもち将来の生活習慣病発症を予防できるよう、今後とも支援していく。</p>	継続	保健医療課
34	乳がん、子宮がん検診の重要性について意識づけを行うとともに、検診を受けやすいよう環境整備に努めます	<p>市広報に同封する健診ガイドや乳がん、子宮がん検診のはがきや受診勧奨はがきの送付によって、意識づけの向上を図った。 また、レディース5がん検診や保育付き検診の実施など、引き続き受診しやすい環境整備に努めた。</p>	<p>市広報に同封する健診ガイドや乳がん、子宮がん検診のはがきや受診勧奨はがきを送付した。 また、レディース5がん検診や保育付き検診を実施しており、一定程度の環境は整備されてきている。 ただし、保育付き検診における保育利用者数はそれほど多くないため、より多くの周知が必要である。</p>	継続	保健医療課

(具体的施策 14)性差に応じた健康支援の推進

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
35	性差による疾病や症状等に対し、相談に応じるとともに医療機関等の情報提供を行います	性差による疾病や症状等に対し、相談や医療機関等の情報提供に努めた。医師・歯科医師による来所型の健康相談を実施した。 〔事業実施名〕総合健康相談 〔実施回数〕6回 〔参加人数〕16人	平成29年度の稼働率が27.8%で30%を下回ったことから、平成30年度は、薬の相談は薬局で既に実施していることから、薬剤師の相談は中止したが、平成30年度は33.3%であり、今後、市民ニーズなどを把握しながら、事業の実施について検討する。	縮小	保健医療課
36	男女それぞれが相談しやすい窓口の整備や情報提供に努めます	女性のための相談(電話・面接等)の充実を図った。 〔実施事業名〕ローズWAM相談事業 〔事業内容〕①女性面接相談 ②女性電話相談 〔相談件数〕①533件②1507件	相談件数は昨年の110%となっており、増加傾向にある。今後も引き続き実施していく。	継続	人権・男女共生課
		男性の電話相談を実施した。 〔実施事業名〕ローズWAM相談事業 〔事業内容〕男性性電話相談 〔相談件数〕52件	相談件数は昨年の118%となっており、増加傾向にある。今後も引き続き実施していく。	継続	人権・男女共生課

(具体的施策 15)生涯にわたるスポーツ活動の推進

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
37	地域の中で男女がともに多世代でスポーツに親しめる環境を整備します	地域でのスポーツ活動に対して支援をした。 〔実施事業名〕地区スポーツ・レクリエーション大会 〔実施地区〕31地区 〔参加人数〕32,037人 〔実施場所〕市内各小学校運動場	参加者数が減少している。地区スポーツ・レクリエーション大会のポスターを新しく作成し、周知活動を強化することで参加者を増やす。	継続	スポーツ推進課

(具体的施策 16)食育の推進

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
38	男女がともに健全な食生活を営むための能力を育む支援をします	地域での健康イベントや出前講座等で食事バランス診断SATシステムを使用した食事バランス診断や取り組みやすい食事の実践方法等をアドバイスを実施した。 〔事業実施名〕①健康づくりセミナー ②食育システム出前講座 ③食育啓発 〔実施回数〕①6回②18回③8回 〔参加者〕①434人②491人③727人	平成29年度の食育システム出前講座の参加者は539人で、平成30年度は参加者数が105人減少していることから、実施内容や周知方法を検討する必要がある。 引き続き、様々な場所において、食に関心を持てるよう、食事バランス診断SATを活用していく。	継続	保健医療課
		保育所等において食育年間計画を作成し、栄養士と連携しながら食育活動を進めた。 保育所・幼稚園においては、園児が食べることを楽しみにできるように日々の生活の中で食にかかわる体験や栽培活動に取り組んだ。	保育所・幼稚園・認定こども園において、食育活動を通して食材や調理方法に興味を持ち、食べる意欲につなげることができた。今後も日々の生活の中で食に関わる体験や栽培活動に取り組む。	継続	保育幼稚園総務課

施策の基本的方向8 ころとからだの健康に関する学習機会と情報の提供

(具体的施策 17)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)という考え方の浸透

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
39	多様な機会等を活用し、リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての啓発に努めます	保健医療課と連携し、デートDVや若年者の妊娠など思春期をとりまく性に関する勉強会を開催した。 〔内 容〕自分の身体とところを大切に する思春期教育について 〔実施日〕平成30年11月22日 〔参加人数〕思春期の子どもに関わる職員、教員、関係団体から43人	定員に対し143%の申込があり、講座受講後の満足度も100%と高く、内容もおおむね評価の高いものであった。今後も関係機関と連携しながら学習の機会を設け、思春期教育に取り組んでいく。	継続	人権・男女共生課
		保健師等が妊産婦及び乳幼児の保護者に対する保健指導を通し、情報提供に努めた。また、不妊治療等の相談窓口についてホームページで周知・啓発した。 〔実施事業名〕母子保健事業 〔実施件数〕 訪問指導 9,262件 面接指導 949件 電話指導 7,979件 特定不妊治療費助成 138件 不育症治療費助成 6件	前年度と比較し、訪問指導、面接指導、電話指導は減少しており、不育症治療費助成は横ばい、特定不妊治療費助成は増加している。訪問指導等が減少した明確な要因は不明であるが、周知・啓発の継続が必要である。	継続	保健医療課
		若年者の妊娠などをテーマにした思春期教育勉強会を実施した。 〔事業実施名〕思春期教育研修 〔対象者〕教職員等 〔講師〕大阪大学大学院 渡邊 浩子教授 〔参加人数〕72人	前年度から関係機関と調整を行い実施することができた。啓発の機会を継続して設ける必要がある。	継続	保健医療課

(具体的施策 18)健康保持のための健康教育、健康相談等の推進

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
40	生涯を通じて、自分の健康は自分で適切に管理できるよう、正確な知識や情報を提供するとともに、教育・学習を推進します	広く市民等を対象に、男女共同参画に関する講座等を開催した。 〔実施講座名〕アンガーマネジメント講座 〔実施日〕4月～3月(月2回・全24回) 〔参加者〕のべ149人 〔実施講座名〕ゆるやか女子ゼミナール(生きづらさを感じる女性対象講座) 〔実施日〕5月～2月(月1回・全10回) 〔参加者〕のべ61人	ころの健康について考える講座であり、申込率・受講後の満足度ともに高い結果となっている。今後も引き続き実施し、健康を考える機会を提供していく。	継続	人権・男女共生課
		様々な啓発活動の機会を利用し、健康管理等についての知識や情報の提供等に努めた。 〔事業実施名〕①健康づくりセミナー ②若年健診結果説明会 ③健康づくり出前講座 ④禁煙相談 ⑤ころの相談室 ⑥栄養相談 〔実施回数〕①6回②10回③56回 ④29回⑤24回⑥15回 〔参加者〕①938人②82人③1546人 ④532人⑤34人⑥42人	若年健診結果説明会は参加者が20%程度であることから、対象者へのアプローチの方法を検討する必要がある。それ以外は概ね年々どおりの参加者数であった。 引き続き、市民自身が健康づくりに関心を持てるよう、教育や相談の場を提供する。	継続	保健医療課

40	生涯を通じて、自分の健康は自分で適切に管理できるよう、正確な知識や情報を提供するとともに、教育・学習を推進します	さらに食育や健康教育を推進するため、媒体を用いてより具体的な教育を実践する。	引き続き、食育や健康教育を推進するため、子どもの状況を把握しつつ取組内容を検討する。	継続	保育幼稚園総務課
		食育や健康教育を推進した。	食育や健康教育を推進することで自分の健康について正確な知識や情報を提供することができた。	継続	学校教育推進課
41	高齢者がリフレッシュできる場とその情報を提供します	介護予防教室を開催した。 ①介護予防健康運動教室 〔実施回数〕 639回 〔参加者〕 13,273人 ②はつらつ教室等 〔実施回数〕 516回 〔参加者〕 8,639人	教室の開催により市民の介護予防に資するとともに、外出の機会の創出につながった。閉じこもりの防止は介護予防に効果的と言われており、引き続き実施に努める。	継続	長寿介護課

(具体的施策 19)思春期におけるこころとからだの健康づくり

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
42	年齢に応じた性教育を推進します	場面や必要性に応じて体の大切さを伝えた。絵本等を通じて、日々の保育の中で推進した。健康診断や身体測定等で自分の体を知り、その大切さに気付く機会を持った。	健康診断や身体測定等で自分の体を知り、場面や必要性に応じてその大切さに気付く機会を持つようにした。(絵本等の活用)	継続	保育幼稚園総務課
		人権教育授業プラン集パートⅡを配布し、児童・生徒の発達段階に応じた性教育を推進した。	児童・生徒の発達段階に応じた性教育を推進することができた。	継続	学校教育推進課
43	子どもの成長の段階をふまえ、思春期の人工妊娠中絶やHIV感染症を含む性感染症、薬物乱用、喫煙、飲酒等について正しい知識を身につけ、適切な行動がとれるよう、学習機会の提供や指導に努めます	小・中学校等と連携した思春期保健教育を実施した。 〔事業実施名〕地区保健活動(思春期) 〔実施回数〕6回 〔参加者〕537人	関係課や大学等と連携を図り実施した教職員等への思春期教育勉強会を契機に、関係課と連携し実施することができた。継続的かつ効果的な実施及び連携について研究を行う必要がある。	継続	保健医療課
		小・中学校における喫煙防止教育を支援するため、小中学校に指導用DVDを配付するとともに、教材貸出の形で、学校教育の支援を実施した。 〔事業実施名〕教材貸出 〔実施回数〕3回 〔参加者〕571人	新しい指導教材の利用状況や小中学校の実施状況をアンケート調査し、利用状況が低かったことから、学校現場のニーズを把握した教材の検討が必要である。引き続き、タバコに関する正しい知識や社会環境の変化について情報提供を行なうなど、学校での教育に対する支援を行う。	継続	保健医療課
		関係機関と連携し、小中学校で薬物乱用防止教室の開催に努めるとともに、エイズ教育を推進した。	関係機関と連携をし、小中学校で薬物乱用防止教室を開催し、エイズ教育を周知することができた。	継続	学校教育推進課

(具体的施策 20)性的マイノリティの理解推進と支援

	施策内容	2018年度(平成30年度)の取組み内容	取組みに対する評価と今後の課題等	今後の方向性	担当課
44	学校教育や社会教育等において、性的マイノリティへの理解が進むよう学習機会を提供するとともに、様々な機会を活用して理解推進のための啓発活動を行います。また、トイレ等の環境の整備を図ります	<p>セクシュアルマイノリティに関する講座を大学生と連携し開催した。</p> <p>〔内 容〕大学生が考えるセクシュアルマイノリティ～大学生サークルによる活動報告～</p> <p>〔実施日〕平成31年3月3日</p> <p>〔報告大学〕追手門学院大学 関西福祉科学大学 京都文教大学 龍谷大学</p> <p>〔参加人数〕68人</p>	<p>参加者の満足度は100%と高いが、申込者数が定員の50%程度であるので、より多くの方に参加いただくことが課題である。日程や内容、周知方法等を工夫し、参加者の増を図りたい。また、大学生と協働しながら、社会を通しての課題を考える内容を検討したい。</p>	継続	人権・男女共生課
		<p>セクシャルマイノリティに関する学習指導案を扱った「人権教育授業プラン集パートⅡ」の活用を促進した。</p>	<p>「人権教育学習プラン集パートⅡ」の活用については引き続き、市教育委員会が開催する研修の場で活用をするように周知徹底を行う必要がある。</p>	継続	学校教育推進課